【Zigzag-memo　02】　「寛大(菅大) 三(讃)美言」から学ぶ“命の躍動感”

山形県西川町菅野大志町長が職員や町民に対して発せられた言葉の中で、私が常々感銘を受けている言葉を勝手に「**寛大（菅大）三(讃び)美言**」と称している。図－1のとおりの言葉――**Ⓐ私の仕事じゃないと言わない（それも私の仕事だ）、Ⓑ利他、Ⓒ先回り**――である。

図－1

その１；そこで、なぜ、この言葉をあえて強調したのだろうか、菅大町長の**意図は知る由もないが、私は勝手に以下のように解釈**している、以下は私の独断と偏見である。

一般的に言われる公務員の三大悪弊とその深層心理について図(表)－2のとおりに整理して見た。これは大企業病にも酷似・通底する。共通的に言うと、人間心理の根本にある防衛本能に根差すことで、現状維持・今の環境の固定化を最善とする防御態勢が自動確立される。つまり、檻を自作し、その中に入り、内鍵を掛けて、内部で自作自演・一人相撲、内部で地産地消の体(てい)になり安住の域に入るのだ、安住のポジションを獲得したからには天国・安楽の境地になる。一方で人間は創造・分化発現の力を内蔵しいることからは安住に対抗する力動も立ち、消極と積極の心が錯綜せめぎ合いするに至る、がしかし、個人の内面において最初に陣取りした消極心が優勢力を占めることになる、結果して集団・組織体に停滞感が蔓延ることになる、これは行政の萎靡(いび)沈滞に直結することからは絶対排除すべき真理である。

Ⓐ私の仕事じゃないと言わない、Ⓑ利他、Ⓒ先回り		
	寛大三美言に疑念を抱く人の深層心理（**抵抗勢力正当化の屁理屈**）	問題視される三大悪弊
Ⓐ	分業・分担しているからには須らく自分の業務・役割をきちんと果たすことが先決だ。その掛け声では相手の仕事を横取りすることになる、手助け・良かれと思った余計なことでエラーすると元も子もなくなる、逆に恨まれることになる、かえって邪魔したと受け取られる、テリトリー侵犯と言われ兼ねない。	縦割・保身意識
Ⓑ	公務員（公僕）としてのプライドを持っている、役所はシンクタンク（＝“頭脳集団”）であり、毎日毎日野菜を売ったり、あるいは牛の世話をしたり、あるいはモノを作ったりとかと違って、私達は頭脳・知性が高い人である、という静岡県川勝平太元知事の言葉に代表される心理を内包する。	独善・特権意識
Ⓒ	組織的な事業活動においては必ず何がしかの計画を作る訳だから、それ自体が未来のキャンパスに作図にしているのだ。従前の行政に瑕疵はないからこそ安寧が図られているのだ、住民から重大な危険切迫の苦情が寄せられていないのだ、よって、変わったことをする必要はない、現状の安定継続が最善なのだ。	先例・前例主義
図(表)－2		

その２；いろいろ言っても人間は生成化育・造化の躍動性（生命力）を有しているからは硬直・固定を許さず活動的になるが、その檻の中に入りつつ外部活動する姿が問題なのである。檻の中だから、ど

こに行くにしても檻を引き摺ることから心・言・行、つまり「心（認識や精神）・言（言葉や文字）・行（行動や活動）」は、当然、自己限定となり、柔軟性や協調性を欠き、視野狭窄病が発症し、結果して、集団活動における総合力の発揮に至らないというのが心理的構造なのである。

ならば、どうするのか、檻から出てもらうしかない、開錠キーを紛失したというからには、外から鍵を壊す他はない、破壊せしめるぞ！　ということの強力なメッセージの象徴として寛大三讃美言を打ち立て、狼煙（のろし）を上げたのだろうと私は解釈する。**この三讃美言は、現状破壊、ブレークスルー、既成概念打破を促すスターティングピストルなのだ**と思う。さて、さらには、そのピストル号砲に反応するか否かの問題が持ち上がる。

実はこの三讃美言の心は生まれた時に万人に備わるごく当り前の「真善美」精神活動なのだ、持って生まれた魂（性根）に疼く純真な感恩報謝の芽生えなのだ。思想信条に無関係に発動するはずなのだ、しかし、発動しないということは、心のどこかに見えざる障害を負っているのだ、それは自らが自らの内に作って自らが蒙昧しているからなのだ、このことを自覚すべきである。

大人になるに従い、様々な経験や知識が汚れとなってこの三讃美言に付着し、何時の間にかハードルの高い道徳・倫理に変質させてしまう。ひいては、前記図(表)－２中の三大悪弊でまっ黒気に変質せしめてしまうのだ。しかし、諦めてはならない、まだ、希望はある。実はこの娑婆世界は「(註)華厳界 ZPF」ワールドなのである、再生・復興するチャンスは目前にあるのだ。なぜならば、同世界は、損得・優劣・強弱・主従等の二項（二元）対立色が着いていない無境界、無限可能性の世界、創造性・叡智の海であるからだ。諸々の序列・境目がない世界なのだ、だからこそポジティブエネルギーが甦るものだ。**このようなことに気付いた人からは、年齢や経験や肩書や学歴や社会的身分に関係なく、深層無意識層（阿頼耶識）に畳み込まれている華厳界 ZPF が疼き出し、寛大（菅大）三賛美言が自発・自噴し、心・言・行が裏打ちするのだ。**この三賛美言には崇高な無償精神、奉仕精神、愛敬精神、報恩精神、そして、開拓精神、敢闘精神が溶け込んでいるのだ、だから、幸福が舞い込むのだ。

しかし、本当は、他人から指摘されるまでもなく、自らの思い込み・先入観（錆びて腐れ切った残滓）を、自らがズタズタに裁断・破壊せしめる意志・認識を直覚すべきなのだ。

寛大（菅大）三讃美言、まだ来ぬ未知・未来域での挑戦意欲を掻き立てる情熱的言葉であり、フロンティアスピリット・トリガー言語なのだ。

（註）マクロ視点からは、この世のあらゆる「もの・こと」に対し「縁起（つながりの連鎖）」の視点を無限（どこまでも）に広げて行くと無境界（華厳界）に行き着く。また、ミクロ視点から「もの・こと」に対し「素粒子（細分）」化の視点で無限（どこまでも）に切り刻んで行くと光と同価の無境界［Zero-Point Field］に行き着く。合わせていずれにしても、世の森羅万象「もの・こと」は根源的に無境界（一（いつ））なのだ、他方で「陰陽相対（待）性原理」をも併せ（合わせ）持つものなのだ。「一＝多」これが矛盾しない世界をいう。

その３；「よそ者・バカ者・若者」のこと、私はその心を図(表)－３のとおりと観ている。　サミエル・ウルマン（アメリカの実業家・詩人）は「青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。」と言った。　年配者・古老を揶揄する時は「老朽」と称し、また、年齢は若年でも覇気がなければ「若朽（じゃっきゅう）」と称す。老・若の区別は、心の持ち方、行動有無とその内容如何だ。**その変わり者たる「よそ者・バカ者・若者」について、本来は、それぞれを集める、探し求める必要はないのだ。自らが**

担い、自ら が三人三様に自由自在に変化(へんげ)し、合わせ以って自らが「化け者」になれば良いだけなのだ。よって、本来は外部から人財招請などという必要はないのだ。外部から人財招請したとたんに世の風景が変わった、イノベーションの風が起こったということになれば地元の大恥であろう。同じく、外部から「よそ者・バカ者・若者」が入って、同様に地域変革のムーブメントが起こったということになれば、地元はこれまでの不甲斐なさに悔し涙で号泣すべきだろう。

３要素	その心（意味合い）	
よそ者	その地域を知らないからこそ先入観がない、地域特有の既成概念で染まっていない。よって、同調圧力に屈しない、右顧左眄しない。 （その地域に住み着いている年数は人間力とは何の関係もない。）	（変わり者・異端児）合わせて「化け者」
バカ者	地位や役職・肩書に無頓着、過去の成功体験に固執しない、自由奔放でユニークリ（独創的）で、かつ保身的でない奇人変人が変化を萌(きざ)す。	
若　者	そもそもフロンティアスピリット（開拓精神）旺盛である、経験が浅い分、怖いもの知らずの突進突破力がある。	
図(表)－３		

しかし、限界集落、あるいは、その予備軍的人間集団の空気感から、図(表)－４のような悪魔の嘆きが聞こえて来る。

今が平穏無事！　余計なことは一切する必要はない。図(表)－２と同じ心理。 （そんなこと）“出来ないでば、無理だでば、やったことないでば”・・・否定的後退姿勢の連発
図(表)－４

こんな中で留意すべき事象がある。視野・視界に「よそ者・バカ者・若者」（化け物）が現れると、還暦を過ぎいい歳ながらも「ねたみ・ひがみ・やっかみ」のヤキモチ屋気質「マンキタゲ佞奸(ねいかん)根性」を以って拒絶反応を示す、「梯子を外す、足を引っ張る」者が必ずや出現するものだ。また、コミュニティ既存リーダーには「他人の褌で相撲を取る（他人の成果を横取りする）」ずる賢い者が必ずや出現するものである。そのような「よそ者・バカ者・若者」の行動（成果）が悔しかったら、なぜ、先にやらなかったのか、と嘲笑したくなる。本来はこういう性格の者をコミュニティのリーダーに据えてはならないのだ。

後からグダグタ言う前に先にやれ！　　いい歳大人のヤキモチ何ぞ見たくもない恥を知れ！

＝＝

最後に、発展的に、どうしても山形県西川町のあちらこちらから見聞きする面白いキーワードを重ねて取り上げざるを得ない。

まずは**「ごちゃ混ぜ」**というキーワード、「老壮青多世代交流」という言葉もあろうが、私も**「ごちゃ混ぜ」の方が温かみがあって**大好きな語彙である。そして**「すっだい！」**、「すっだい」ことを自ら発見し、そのすっだいことが叶う（適う）ことを夢見て、そのすっだいことの実現に向けて、一生懸命努力し、活動的に取り組んでいる進取気鋭の人財発掘と、能力開発を促す環境作りにおいて西川町の多くの

人達から聞く。「**よそ者・バカ者・若者**」（うつけ者・たわけ者・奇人変人、化け者）が「**ごちゃ混ぜ**」になって、**それぞれ個々の「すっだい！」を大きく掲げ、強い意志を持ち、さらには、チームの「すっだい！」成功に向けて**、その持ち場・立場で、使命感と情熱を以って頑張っている人達の後押しをするのは、「**寛大（菅大）三(賛)美言**」であろうと率直に思う。　近年の著しい人口減少、そして超少子高齢社会にあって、特に顕著な地方やそのコミュニティにあっては、権威主義を引き摺る一部の仕切りでは希望はないのだ、様々な価値観や思想信条の持ち主が「**ごちゃ混ぜ**」で活動してこそに新しい道が開ける、新しい共創社会化が育まれるものと確信している。逆にいうと、活力ある地域は、心底から「よそ者・バカ者・若者」のごちゃ混ぜをを是とする、化け者を受入れる寛容社会でなければならないのだ、金太郎飴の人間集団はつまらない！。

本当は、こんなことを私が分かったかのように言う前に、滔々と流れている大いなる宇宙原理なのである、人工的細工、人為的技巧を許さない自然原理なのだ。吾が生命活動に従順ならば、一人ひとりが自家発電所（変革エネルギーを生産し、社会に貢献する）の身となり、分散型電源の一翼を担い、躍動的ベストミックスを強く意識することになるものだ。これが一番ストレスを抱えない素直な生き方なのだ。もちろん、私自身がそのような当事者として心・言・行に十分留意しているつもりだ。

寛大三(賛)美言、みんな纏めて、普遍的な慈愛精神と強靭な敢闘精神、文武両道の日本精神の精華を見る思いがする。みんな纏めて、段取り八部の督励、未来志向性の精神鼓舞と受け止めている。

また、“未来は無限のラッキーチャンス！”と激励されている感がする。

ところで、後記図－5のキーワードを包括したキャッチーなミニ PR ポスターを制作して欲しい、絵心のある人はいませんか！

私は松尾芭蕉の「不易流行（変わらないものと変わっていくもの、変えてはならないものと変えなければならないものを混同してはならない、それを社会通念に照らして峻別する眼力が必要)」や論語の「温故知新（故きを温(たず)ねて新しきを知る)」の精神が大好きである、すなわち、日常不断の「scrap and build」を意識している。この二つの言葉を合わせ敢えてデジタル化すると、私のイメージすべきは「古い分野：新しい分野＝49:51」である。

「寛大(菅大) 三(讃)美言」から刺激触発され、私が学んだことを可視化に留意しつつ次頁以降に纏めて見た。中身の考え方は、三(讃)美言の直接的意味合いに加えて、

- サラリーマン生活 41 年長における管理職時代に、部下の指導、人財育成、意識改革、心の改造面で留意した指針
- これまでの人生から学んだことについて、自戒自省を込めた自らの生き方指針・指標
- 今この日常生活において、 前向きになれて心の安定が図られる安息指針

をマージして記述したものである。私のこれまでの人生観とぴったり共感・共鳴する思想・精神である。これらを毎日のように眺めて強く意識している。

また、私の知人・友人とのお茶飲みやアルコール・コミュニケーションの時に話題に出しつつ、本書を配布し、話題提供の素材にしている。

断っておくが、私は政治においては完全無党派、宗教においては完全無宗教である。私は特定の思想信条に偏って固執することを最も忌避する人間である。ただし、政治や宗教には大きな関心を持っている者だ。　**私の心は“とことんとことんSyncretism(シンクレティズム)”を以って共創立脚にある。**

以下の①・③・④は西川町ＨＰより、②は堀豊（ホリックス）さんの facebook より拝借

①

②

③

④

Ⓐ

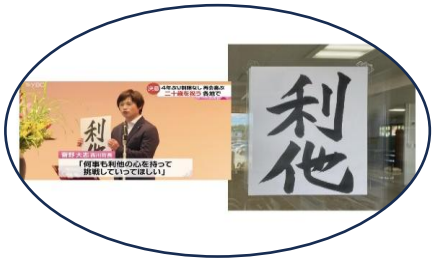
Ⓑ

Ⓒ

Ⓐ私の仕事じゃないと言わない（それも私の仕事だ）、Ⓑ利他、Ⓒ先回り

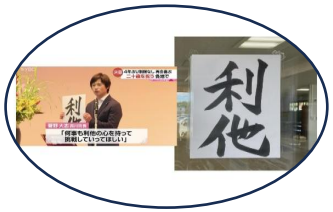
山形県西川町菅野大志町長が職員や町民に対して発せられた言葉の中で、私が感銘を受け、共感する言葉（精神）であるが故に、勝手に「寛大（菅大）三美言（讃び）」と称している。

世の「醜態三否言」と「寛大三美言」の両者は、姿勢においては真逆、激突するのだ

世の「醜態三否言」 ⇐　後退志向	激突	「寛大三美言」 前進志向　⇒
課題解決に障害となる言葉、明るい職場環境や地域活性化を阻害する言葉 ⇊		 率先垂範、自ら開拓・実行する姿勢を表現
（・・・そんなこと） **×出来ない！** **×　無理だ！** **×　やったことない！** （自分に対し、他人に対し） 絶対に発言してはダメな言葉だ 絶対に許してはならない言葉だ 絶対に同情してはならない言葉だ	〈×〉	 慈愛（優しさと気遣い）発露を表現
⇈ ✅それは、競争意識の中で渦巻く「妬み・ひがみ・しょねみ」（マンキタゲ侵奸根性）から発症、顕在化するゆがんだ感情なのだ。 ✅前向きな創造的提案をつぶす実力行使的感情なのだ。 ・“現状、困ったことが何も起きている訳ではないよ、今までどおりでいいべや” ・“何も、今更、波風立てる必要はないべや”		
他人に越されたくないという深層心理。　やりたくない姿勢の公然化 （自分が先立ちたい、しか、当事者になりたく無いというずるい・卑怯な心理）		この精神はハードルが高い(要自己錬磨) しかし、当り前なのだ

“やるにはどうするか、どうすればやれるか”

西川町、　菅野大志町長の「寛大（菅大）三讃美言」
どこから生まれるか？　何を生むのか？



対等互啓（恵）×切磋琢磨

なぜ、このようなゲテモノ・クリエイターに嫉妬を感じるのか?!

よそ者　バカ者　若者　十人十色

肩書を外して対話しよう！

政治　スポーツ　宗教　百人百様

なぜ、このような話題を飲み会や集まりで出してだめなのか?!

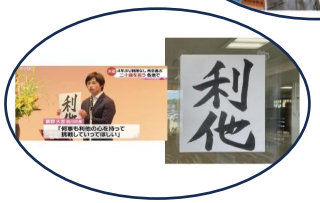
無分別智界・平等相	左右両者相補	分別知界・差別相（しゃべつ）

諸活動は、両方の精神が分離して成立し得ない、表裏一体を強く意識すべきなのだ。

『それ行けドンドン』（独善化の種子を内秘）は、時々、三讃美言で統御・再定義すべし！

寛大(菅大) 三美言(讃)フィールド

2024(R6)年 2 月 10 日(土)から学んだこと



を源泉として生まれる

新天地が発動

“Zigzag Man Mishin 縫接行” の心
“ごった煮 ちゃんこ鍋” 大好きの心
“老壮青レイヤー”大好きの心
“エリア・シャッフル” 大好きの心
“世代間カクテル” 大好きの心

それらは、陰陽二元の交配・配合、クロッシングの理法であり、生命誕生の理に返る。

・Backcasting (バックキャスティング)
・Syncretism (シンクレティズム)

寛容

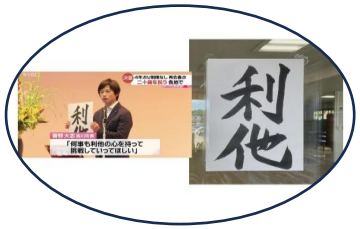
・DEI
Diversity (ダイバーシティ: 多様性)
Equity (エクイティ 公平性)
Inclusion (インクルージョン: 包括性)

得意 得手・特技を丸ごと相互尊重する対等互啓(恵)
×
肩書を外した切磋琢磨こそがそれらを育む健全な土壌となる

あらゆる事業展開・活動の軸足をプロダクトアウトからマーケットインへ！

左記は、すなわち、雑華厳飾(ぞうけぞうじき)(華厳)因陀羅網(いんだらもう)の世界――『一即多・「多即一」、すなわち、個人と全体の境界がなくなった状態――にこそ分厚い情熱と叡智が生まれる。
人間サプライチェーン×ビックデータ×ワイドステークホルダーの三位一体観は、化育生成・造化のエンジンとなる。
三美言(讃)がバックキャスティングの素地となり、バックキャスティングが三美言(讃)を育む、両者は相思相愛・不離一如の間柄である。

「クエン酸サイクル理論」を暗示する。人間が体内でエネルギーを生み出す生化学反応回路で、細胞内ミトコンドリアで生起し、クエン酸から始まり、７種類の酸を経て再びクエン酸に戻る循環プロセス理論をいう。

寛大三(讃)美言は	**「心の原点回帰」「精神復興」を促す強靭・熱烈なメッセージだ！ 良心・至良知、使命感と共にトライアングル統合体を成す！**	
	・この寛大『三(讃)美言」は崇高な人間精神なのだ。自分自身の成長エンジンなのだ。逆に成長エンジンは三(讃)美言を燃料として止まないのだ ・生まれ持って来た「良心・至良知」は寛大三(讃)美言が大好き、「良心・至良知」は寛大三(讃)美言を求めて止まないのだ ・「使命感」という情熱は、三(讃)美言で満たされた阿頼耶識(良心・至良知)から自然蜂起するものなので奮起が止まないのだ	良心・至良知 使命感 三(讃)美言
	＊ 三(讃)美言の心は、生まれた時に万民に備わっている崇高な無償奉仕・人類愛の理想精神なのだ。 ＊ この心を理想論だ、厳しい言葉だと思うようでは、人生に幸福はからんで来ない。 ＊ この精神は、難しい論理やテクニカルスキルはまったく不要、華厳 ZPF（阿頼耶識）から染みて来る三(賛)美言の心にただ従順になるだけで済むのだ。	私は 75 歳を過ぎたからには、敬慕・私淑(ししゅく)する安岡正篤(まさひろ)先生が提唱する「一灯照隅行」の実践的当事者として、三(讃)美言にシンクロナイズドする者として、身の丈微力を世にお返しするつもりでいる。

私は、公私共に「心（認識や精神）・言（言葉や言語）・行(行動や活動)」において、この三(讃)美言を強く意識しつつ、実践に向けてひたすら努力している人に近付きたい。

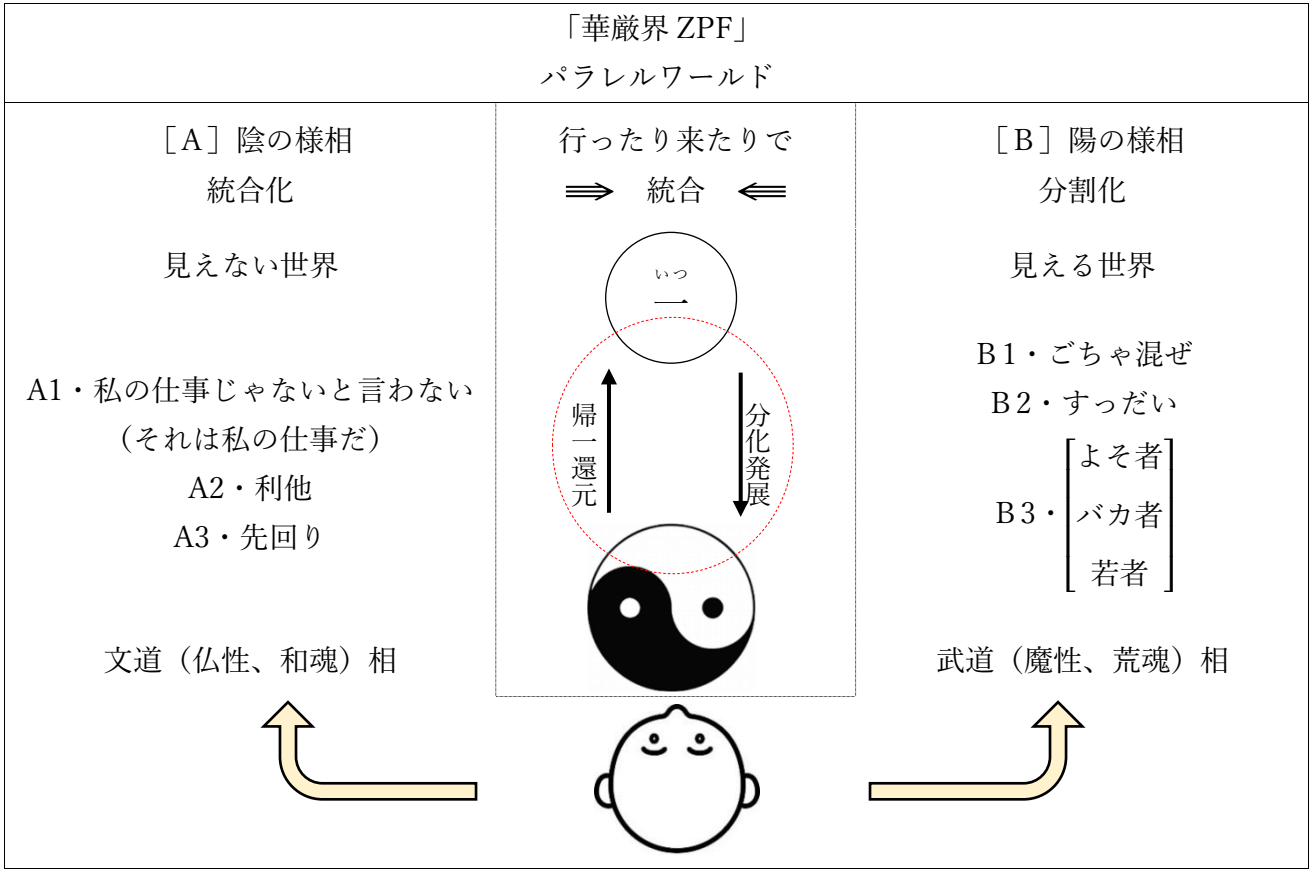
三(讃)美言実践すれば（我欲・我執を捨てれば)こそに、返って、吾に本物の至福豊潤な「自利」を齎すのだ、素敵なブーメラン効果が絡んで来るのだ。

「寛大三(讃)美言×ごちゃ混ぜ」は、位育(いいく)参賛（それぞれの持ち場立場で、身の丈の全力投球で臨む）を促し、感奮興起の波動を生じせしめ、心底から喜ばれる、純粋に楽しまれる精華を自他共に齎すのだ。

以上のキーワードを陰陽二元相対（待）性自然原理の切り口で再評価出来る。人間が如何ともし難いこの宇宙の森羅万象「もの・こと」に内在する自然原理である、なお、**大前提があり、『陰』『陽』は「黒と白」で表示するが、大小・強弱・優劣の差異は一切なく、同じ価値とする。二元を象徴的に表現するための記号である。**

現実界は、放っておいても陽作用・分割化の一途を辿る傾向がある。したがって、留意すべきは、陰作用・統合化（真理追求、理想追求）の意識だが、日常のあらゆる「心・言・行」において「陰・陽」の同時進行の癖、何もかも偏頗しない癖が必要なのである。

右表［A1～A3］のキーワードは、世にいう文武両道を取り上げれば文道の相、［B1～B3］のキーワードは武道の相を持つ、また、私の自称「仏魔同居(どうご)」を取り上げれば、［A1～A3］は仏性の相、［B1～B3］は魔性の相を持つ。なお、神道的に言えば、仏性は和魂、魔性は恐ろしいということではなく活動的な荒魂に対応している。　菅大さんの意図はともかくとして、私から見ると、［A1～A3］と［B1～B3］のキーワードの真意・深意は、陰陽二元相対（待）性自然原理のきれいな調和（空海が唱えた「中道正観」と同義）の世界が浮かぶ。



どちらが大事かの択一の眼ではだめで、並立の観点を持ってこその実践にまい進すべきということであろう。　**もっと言うと［Ｂ１～Ｂ３］だけではなく、――そこだけに固執すると我田引水的になる恐れが生ずる――そこに三**(讃)**美言の心を掘り起こしトルネードさせてこその統御が生まれ、まさに華厳「事事無碍法界」における「中道正観」実践行そのもの**が展開されるのだ。

“　文武両者を分離するものでない、文道三(讃)**美言精神を単独でどこかの研修会で勉強するものではない、日常生活に溶け込んだ知行合一、両者同時同立の行動が重要なのだ”　と諭したのではないだろうか。**

さて、よそ者の私の西川町との係りをどのようにイメージ図化するか？　私は「串刺しとっくり型双発人口」の一人だなあと思っている。

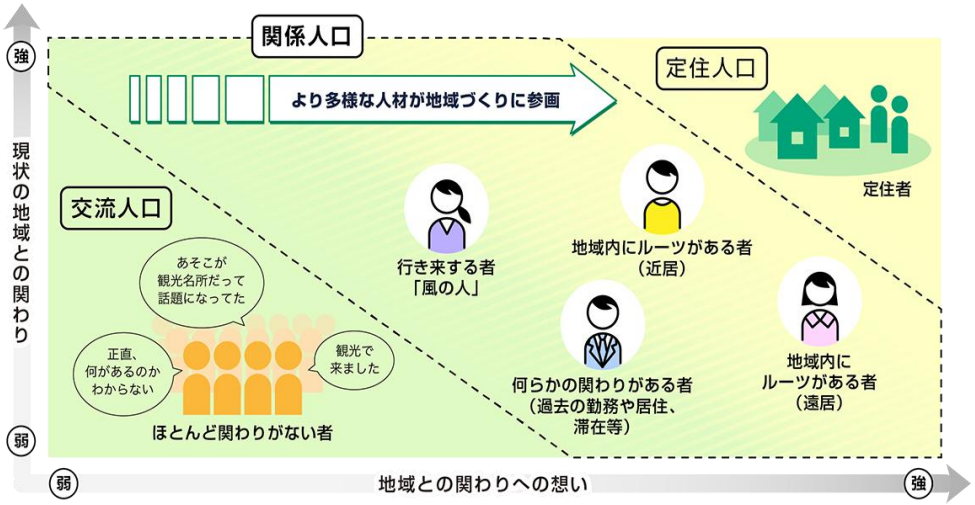
A1・私の仕事じゃないと言わない（それは私の仕事だ）、　A2・利他、A3・先回り
B1・ごちゃ混ぜ、B2・すっだい、B3・（よそ者、バカ者、若者）

の語彙キーワードに惚れ込んで、その心を地で行く人達との出会いがあって、出羽三山東南エリア西川口（本道寺口高清水通り、岩根沢口清川道）に広がっている史蹟等に魅了されて幾度となく通って来た。

さなか、右上の図柄（総務省サイト）に触れた。私は、気持ち的に、ある時は交流人口の一人、ある所では関係人口の一人、ある場面では定住人口の一人として繋がっているんだ、と思うに至っている。そこで、私の気持ちをどのように表現すればよいのか、ちょっと思案した。

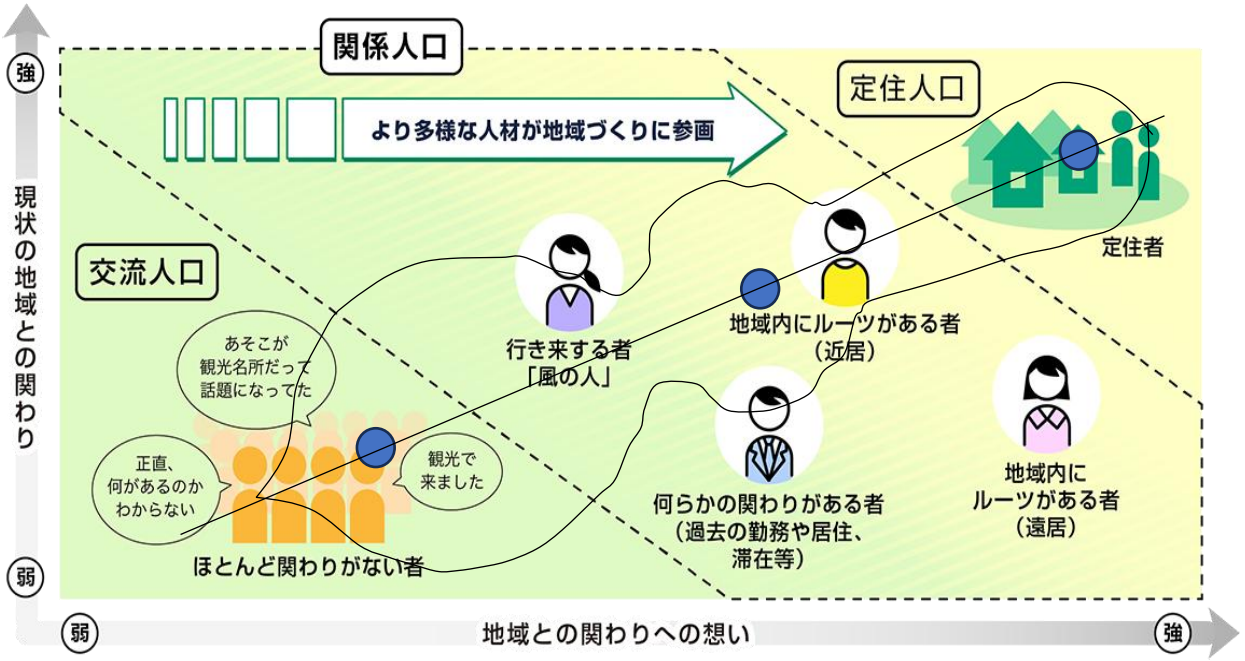
ここで、はたと、とっくりが浮かんだ、呑み助ではないが?!
とっくりは奈良市中川政七商店の読み物（https://story.nakagawa-masashichi.jp/）より拝借した九谷焼の徳利。そのとっくりの外形ラインから想像し、気持ち的に“緩く時に強く（硬軟自在に）”**「串刺しとっくり型双発人口」**の一人と勝手に自称することにした。概念化すれば右図のように。三つのくびれと三つの階層縦断（横断）を重ねた。双は二つの核、山形と西川、あるいは交流人口と関係人口の二つの意である。

私（大沼香）の西川町に係る心意気



×

Sustainability



緩く時に強く（硬軟自在に）
「串刺しとっくり型双発人口」

（註）双は二つの核、山形と西川

「時間・空間に境界なし・色なし」

執務時間（勤務）中	プライベート中　（1）　◎ デスク付随の肩書を外した立派な人	プライベート中　（2）　× デスク付随の肩書を引き摺ったダメな権威主義者
肩書・役職名は人間性に対してではなく、デスクに付随しているものなのだ	**しかし、付随の肩書を外した上でも、職員・従業員はトップ（首長・社長）の代理人だという高い倫理観が必要なのだ　（寛大三美言の持ち主）**	**デスク付随の肩書を引き摺った上で、その権威を振り回す性格はコミュニティにとっては「百害あって一利なし」なのだ**

業務上であれ、コミュニティであれ、指揮命令系ピラミッド組織構造において、階層に応じた職務・職責、応分の役割を担うシステムが機能する中で、その旗印として肩書（役職名）を付けたに過ぎない。だから肩書・役職は一つの限定された閉鎖組織内で機能するもので、いわばデスクに付与した階級表示腕章みたいなものである。本源的に人間性の重みに付けたものではないことは言うまでもない。**その肩書を全部外したら・剥したら貴方に何が残るのか？**職務上にあっては「ノブレス・オブリージュ」100%実践、発揮してこそ、初めて、その身分と労働対価が釣り合うというものである。

（

私は、貴方は「人間デブリ」――デブリとはあの東京電力福島原子力発電所爆発事故で生じた放射能まみれのあらゆる瓦礫が固まった残骸様相のものを抱えていないか？　全身が「人間デブリ」漬けになっていないのか？　自戒しています。

たった一度の人生で最も恥ずべき放射能まみれの「人間デブリ」を排除し、もしくは除去出来る押背（おうせ）の力は寛大三（讃）美言であると、これまでの私の人生を通して確信出来ます。

私の日頃の意識は、とことん、どこまでもどこまでも思想信条を超えた「対等互啓（恵）の相互交換姿勢」であるが、寛大三（讃）美言の精神と合致すると思っています。

（end）